

彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

○実行委員会の開催（年2回）

構成委員：19名 各中学校管理職、CS管理職、地域コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会、NPO法人、事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7月4日（木）：事業説明・各本部の実践交流

1月27日（月）：各本部の実践交流・今年度の振り返り・次年度に向けた協議

○10・11・12月：学校訪問

7中学校とコミュニティ・スクールの2小学校を訪問し「地域学校協働本部事業」「地域未来塾事業」と「コミュニティ・スクールの事業」の進捗状況の把握と助言を行った。

○10月28日（月）：県コミュニティ・スクールアドバイザーによる研修会

「支援から協働へ コミュニティ・スクールについて考える」高木和久先生

○12月19日（木）：地域コーディネーター研修会「なぜ今コミュニティ・スクールか」北辺禎雄先生

○1月29日（水）：県コミュニティ・スクールアドバイザーによる研修会

「学校と地域が元気になるコミュニティ・スクールのあり方」伊藤照男先生

■本年度の成果

○学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」をしていくことの理解を深めることができた。

○コミュニティ・スクール設置に向けた研修や協議等を繰り返すことにより、コミュニティ・スクールを視野に入れた取組を少しずつではあるが進めることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

○事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化している傾向がある。地域未来塾の学習支援員の確保のためにも、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

○地域における活動の認知度が高まっていないので、広報活動にも力を入れていく。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに2校が学校運営協議会を立ち上げ、彦根市のCSは4校となる予定である。今後は、4校の取組の成果と課題をもとに他校の学校運営協議会のスムーズな導入につなげていきたい。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

市内の公立幼稚園、小学校、中学校すべてに地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めてきた。

学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）の拡大に伴い、地域と学校の協働体制の構築に重点に置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向かっている。

■本年度の具体的活動

- 4月23日（火）運営委員会（校園所の担当者）〔桐原コミセン〕
- 4月26日（金）運営委員会（地域学校協働活動推進員）〔ひまわり館〕
- 5月～6月 各校園の第1回学校運営協議会への出席および説明
- 7月29日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡〔桐原小学校〕
- 1月24日（金）「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 滋賀
- 2月28日（金）運営委員会 兼 推進研修会・情報交換会



【4月運営委員会】

■本年度の成果

- ・地域学校協働活動のねらいや運営方法が各校園に定着し、それぞれの地域性や校園の個性を活かした教育活動を展開している。
- ・放課後子ども教室を設置している小学校では、元教員や専門的な知識を持つ学習支援員が、自分の得意分野を活かして、教員とは異なった視点で子どもを見つめ、幅広い学力につくことができている。大人と子どもが楽しみながら笑顔で活動する微笑ましい光景も見られている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・コミュニティ・スクールを設置した校園における地域学校協働本部の役割や、学校運営協議会と地域学校協働本部の連携のあり方について、不安を持ちながら取組を進めている校園が多いので、引き続き、理解が進むような取組を行う必要がある。
- ・放課後子ども教室では、人材や場所の確保等で、設置までのハードルが高い小学校もあるため、地域住民や学校との丁寧な議論を重ねた上で、設置に向けた動きを進める必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・社会教育法および、本市が昨年度に制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、本年度より地域学校協働活動推進員を委嘱した。
- ・市内の25校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ1名の地域学校協働活動推進員を配置して、委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・市内には、9つの公立幼稚園およびこども園、12の公立小学校、4つの公立中学校がある。現在、学校運営協議会を設置しているのは、幼稚園が1園、小学校が4小学校、中学校が1中学校である。
- ・令和3年度までに、市内すべての公立幼稚園、小学校、中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとする予定である。
- ・コミュニティ・スクールへの移行に対して、大きな不安を持っている校園があるため、設置済みの校園はもちろん、今後設置予定の校園に対しても、丁寧な説明をしていく必要がある。

草津市における地域協働合校の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげている。人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、地域の大人が子どもたちと共に地域・学校をより良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。



【地域コーディネーター会議】

■本年度の具体的活動

(1) 運営委員会

第1回（4月11日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と地域学校協働本部事業との関連性と方向性について協議

第2回（8月20日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修・意見交換

第3回（2月14日）総括会議 一年の振り返り、実績報告書について説明

(2) 地域コーディネーター

業務説明会（4月18日）地域コーディネーターの機能と業務について

情報交換会（7月25日）1学期の地域コーディネーターの活動報告および課題の検討、情報交換

総括会議（1月30日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

(3) 地域協働合校研修会（11月11日）

対象：地域協働合校担当教職員、地域コーディネーター、小中学校PTA、

まちづくり協議会地域協働合校推進委員、地域まちづくりセンター職員、市関係課職員

内容：講演と分散会を行い、今の子どもたちに必要なことは何かを考えるとともに、地域のまちづくりにおいて双方の連携・協働が必要であること等を再確認し、今後の事業展開につなげるための意見交流

(4) 広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を4回発行

広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布、庁内掲示、

草津市HP掲載

■本年度の成果

継続した支援と、地域の特色を生かした事業実施の結果、文部科学大臣表彰を受賞できる取り組みへと発展している。また、「連携・協働」をテーマにし、学校・地域・家庭の代表者が集まり、具体的な活動について意見を交流する場を設けることで、横のつながりの大切さや、リーダー育成を様々な場面で仕組んでいくことの重要性を共通認識することができた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

6名の方が新規地域コーディネーターとして事業の推進に尽力したことで、事業の見直しや新規事業展開が図られたが、継続事業の引き継ぎに課題もあった。地域や学校との連携をより深められるようにコーディネーター交代時に引き継ぎ方法の整理等を進め、協議の場を提供し、継続できる取り組みへと発展させていく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成31年4月から地域学校協働活動推進員として委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成30年4月から市内全小中学校（計20校）に学校運営協議会を導入している。

栗東市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

- ・学校を核として、学校、家庭及び地域住民相互の連携及び協力を推進し、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに地域のコミュニティの活性化を図る。

■本年度の具体的活動

- ・市内9小学校区のうち8小学校区において、地域住民の方にサポートースタッフとして協力を頂きながら放課後子ども教室を開催し、おおむね年間を通じて、放課後を中心に週1回程度の割合で放課後や週末におけるスポーツや体験・文化活動をとおして、子どもと地域住民との交流などを行う。
- ・市内3中学校区のうち1中学校区において、地域学校協働本部を設置し、地域センターの方々により組織された団体が基幹となって、地域ぐるみで青少年の健全育成や、学校や家庭での教育活動支援に取り組む。

■本年度の成果

- ・放課後子ども教室事業では、学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所（活動拠点）を設け、地域の大人、退職教員、大学生、青少年・社会教育団体関係者等を安全管理員等として配置し、年間を通じて、放課後を中心に週1回程度スポーツや体験・文化活動を通じて子どもたちには放課後を楽しく過ごしてもらうことができました。また、子どもたちと地域住民との交流も深めることができました。
- ・地域学校協働本部事業では、学習環境支援、図書室支援、環境整備支援、栗中コミュニティガーデンなどの校内での活動や、通学マナーアップ、校行事支援などの地域に目を向けた校外での活動を通して、地域センターの方々と生徒との交流が促進され、地域と学校との連携を深めることができました。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・放課後子ども教室事業、地域学校協働本部事業とも協働活動に欠かすことのできない地域センターの方々の高齢化が進み、慢性的なスタッフ不足が大きな課題となっています。特に放課後子ども教室事業では、活動が実施される時間帯において、若い世代の方は、就労や小学生未満の子どもの育児、また、スタッフの主要構成世代となっているシルバー世代の方についても就労されている方が増えてきており、なかなかスタッフが集まらないのが現状です。今後の活動を継続していくにあたり、地域住民の方に対して活動への理解を深めてもらえるような情報提供を行うとともに、保護者の方などにも声かけをしながら少しずつでもスタッフの確保を進めていきたいと考えております。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・地域学校協働活動推進員の委嘱については行っておりません。



【 放課後子ども教室 】

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・域内の公立学校園の学校運営協議会の導入は行っておりません。
今年度は、コミュニティースクールに係る研修会等に参加しました。

■その他

- ・放課後子ども教室事業では季節に応じたイベントや、お楽しみ会など子どもたちが楽しめるよう工夫しながら活動を行いました。
- ・地域学校協働本部事業では長年にわたる活動により、ユニホームを着たセンターさんが生徒やその保護者に自然な形で受け入れられ、和やかな雰囲気で開かれた学校づくりに繋がっています。



【 地域学校協働本部 】

甲賀市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] 地域学校協働本部 地域未来塾 放課後子ども教室 土曜日の教育支援

■目指す姿

～あい甲賀「いつもの暮らしにしあわせを感じるまち」～
社会教育、生涯学習の分野から、まちを愛し、そこに住み続けたい、働きたい、まちのために活躍したいという思いを、地域と共に育てます。



■本年度の具体的活動

社会教育委員の会議において、地域学校協働活動本部の設置について、平成30年度から協議を重ねている。昨年度は研修を含め、5回実施。本年度は、CSマイスターを講師に招いた研修の機会をつくるなど、年間5回の会議を実施。また、子どもたちが健やかに育つ地域づくりを目指し、教育の基礎となる家庭教育力の向上ならびに地域における持続的な生涯学習社会の実現のため、「甲賀市夢の学習事業」を、平成30年度からNPO「地域で作る土曜日夢の学習」に委託している。貧困や生活困窮による教育格差を無くすことを目標とし、事業への参加は無料としている。

【 社会教育委員の会議 】

■本年度の成果

地域学校協働活動のあるべき姿の方向性がなかなか見えていなかったが、自治振興会に、学校との連携が図れる担当者がいると、活動しやすいことがわかつってきた。また、夢の学習事業は、市がNPO「地域で創る土曜夢の学習」に委託して、地域学校協働活動、土曜日の教育支援、家庭教育支援など包括的な取り組みを行っている。昨年度は水口、甲南、信楽地域での実施であったが、今年度は、土山、甲賀地域も含め、範囲を全市に広げることとなった。実践を通じて新たな課題を見出し、研究しながら、課題解決に取り組んでいる。(令和元年12月時点で、講座数758、参加者数は10,000人を超える。)

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

上記に示す役割を担う担当者が、定期的に学校に出向いていただき、新たに任用したコーディネータとつながり、学校の現状や課題、求める学習や体験活動にどのようなものがあるかを熟知していただいだ上で、自治振興会でつかんでいる人材等とのすり合わせをしていくなどの連携が大切である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和4年度導入に向けて準備している段階。

■その他

野洲市における地域学校協働活動の取組①

[取組状況] ■ 地域学校協働本部□地域未来塾□放課後子ども教室□土曜日の教育支援

■ 目指す姿

地域、保護者、PTA等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する姿

■ 本年度の具体的活動

- 8月 地域学校協働活動の取組を開始
校長会・教頭会での主旨説明
- 9月 県教委市町訪問受入れ（北野小）
- 10月 地域学校協働活動推進員9名の委嘱
- 11月 運営協議会開催

■ 本年度の成果

これまで本市では、学校、保護者及び地域の代表者で構成する「学校応援団」を組織し、家庭を含む地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めてきたが、今年度から、「地域学校協働活動」に活動の範囲を広げた。

このため、運営協議会を開催し県教委の担当課より活動の説明を受け、今後の地域と学校との協働のあり方を学んだ。

各本部においては、学習支援、環境整備、見守り活動など年間を通じて協働活動が実施できている。

■ 課題と今後の協働活動の推進に向けて

これまで本部ごとに独自の活動を行ってきたが、その地域の独自性は活かしながら、学校を核とした地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業に取り組みを進めたい。

■ 地域学校協働活動推進員の委嘱状況

これまで、学校応援団活動の中心となっていたいただいた方を、地域学校協働活動推進員として、全ての本部で委嘱した。

■ 域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

既存の学校評議員制度を活用し、地域学校協働活動と連携しながら地域の実態に応じて拡大・移行していく予定。

平成30年度から学校運営協議会検討会を立ち上げ、県のCSアドバイザーの指導を受けながら研修を重ねている。



【野洲市学校応援団運営協議会開催】

野洲市における地域学校協働活動の取組②

[取組状況] □地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の具体的活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実施日	参加人数	協議内容
1	令和元年 5月31日	16名	(1) 令和元年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 令和元年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	令和2年 2月21日 実施予定	一名	(1) 令和元年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 令和2年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議会長、篠原地域子ども教室運営協議会会长、北野小学校区青少年育成会会长、中主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、コミュニティセンターぎおう事務局長、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、コミュニティセンターきたの事務局長、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会代表、小学校教頭会代表

■本年度の成果

- ・子ども教室を通じて、子ども達の協調性や自主性、社会性が育ってきている。
- ・地域の方が子ども教室に関わってくださることで、地域の交流が生まれ、「地域の子どもは地域で育てる」という雰囲気が出来ている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・教室を運営してくださっているスタッフの確保が難しくなってきている。市民活動サークルとして登録をされている方や、各地域のコミュニティセンターで活動されている団体などへも積極的に協力の呼びかけを行っていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在は、市職員が事務局として担っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校運営協議会については、協議中である。

湖南市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力のつく湖南市教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、「学力保障」、「仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱としている。「全ての学校が、コミュニティ・スクールへ」を本市教育委員会の方針として掲げ、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」を推進している。

■本年度の具体的活動

○市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会議 年2回

第1回 4月24日(水) ・湖南市教育指針、「地域とともにある湖南市ビジョン」の周知

・地域コーディネーター委嘱状授与 ・地域学校協働活動推進事業等の進め方について

第2回 各中学校区において開催

甲西北中校区 11月12日(火) 石部中校区 11月18日(月)

日枝中校区 11月21日(木) 甲西中校区 11月26日(火)

○学校運営協議会理事長・地域学校協働本部委員長等交流会

11月29日(金)

・小中連携、小小連携を重視した各校の事業取組の交流や情報交換等

○学校評議員・学校運営協議会理事・地域学校協働本部委員、地域まちづくり協議会役員、教職員、地域ボランティア等合同研修会(兼:運営委員会、事業成果報告会) 令和2年2月21日(金)

1) 功労者感謝状贈呈 2) 実践発表 石部南小学校の取組発表

3) 講演 子どもが活きる「富よりだんごの取組」

講師 奈良県CSアドバイザー 新谷 明美 氏

■本年度の成果

- ・4中学校区ごとに主な取組内容の情報交換、児童・生徒の姿から成果と課題の交流を行い、学校や地域の特性を生かし、児童・生徒が将来の地域の担い手となる力を育てる取組となるよう年々工夫・改善を加えることができた。
- ・まちづくり協議会とのつながりを深め、スクール・コミュニティづくりに取り組むことができた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・事業の周知と地域人材の育成を図る中で、各地域学校協働本部の経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やNPO法人等との連携・協働をいっそう進めていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・地域学校協働活動推進員全員を委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・1中学校区において校区の連携や地域の実態を生かして中学校区としての学校運営協議会の設置を目指す。



【 甲西中ミニ部活 】

高島市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域学校協働活動を通じ、「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の関係をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティが形成されることをめざす。

■本年度の具体的活動

- (1) 地域や学校の特色を生かした活動
 - ・学校のニーズや地域性などをいかし、それぞれの中学校区で特色ある取組が行われている。
- (2) 地域学校協働本部と地域関係団体とのネットワーク化
 - ・今年度、社会教育課内に地域教育連携室を設け、青少年育成事業と地域学校協働活動事業を一体的に行い、「地域の子どもは地域で育む」の共通の目的のもと活動を行うことができた。
 - ・学校支援活動について今年度は個人から団体への呼びかけを行った結果、事業ごとに支援してくれる団体が定着はじめ、緩やかなネットワーク化が進んだ。
- (3) 研修への積極的な取り組み
 - ・全国コミュニティ・スクール研究大会において、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて、湖西中学校での取り組みを中心導入から成果・課題等について発表した。また、地域学校協働活動推進員（以下、推進員）にとっても、学校を核とした地域づくりの推進に向けて、さらに学びを深めることができた。CSコンサルタント派遣事業も活用し、課題解決のため助言もいただいた。
 - ・地域とともににある学校づくり推進フォーラムなどの研修会に、推進員の活動拠点である学校の教職員等を派遣し、先進地の実践事例などについて研修を深めた。推進員と学校が目指す方向を共有することで活動を進みやすくするとともに、校区内教職員のキーパーソンとして現場職員への働きかけが期待できる。
 - ・青少年に関わる活動を行っている団体などを対象に、地域全体で子どもを育む必要性についての研修を行った。

期日 11月24日（日）

場所 藤樹の里文化芸術会館

講演 講師 NPO法人まちと学校のみらい

代表理事 竹原 和泉 さん

演題 「子どもも大人も一緒に学ぶ
～地域の子どもを地域で育むために～」



■本年度の成果

市の広報や学校便りなどで、地域学校協働活動の取り組みや成果が紹介され、活動への理解やボランティアなどの支援が広まった。特に青少年関係団体や民生委員などの福祉関係団体との連携・協働が進み、様々な場面で地域の子どもへの関心・理解が高まった。また、学校支援だけでなく、学校から地域へ子どもたちが出向く姿も多く見られた。

【CSコンサルタントによる助言】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・学校支援中心の活動からさらに地域と学校の協働活動へ推進するため、学校運営協議会と「高島の子どもたちにどう育ってほしいか」のビジョンを共有し、一体的な推進を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成30年度に地域学校協働活動推進員6名を委嘱し、中学校区に配置済み。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

公立学校においては、全てで学校運営協議会を導入済み。（平成30年度）

東近江市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

■本年度の具体的活動

- ・本部長（担当者）及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（4月・10月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（5月・10月・2月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催
(小学校：6月・11月／中学校：7月・12月／小中合同：8月・1月・3月)
(1) 各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
(2) 少人数でのグループワーク
(3) 県教育委員会主催の研修会報告
- ・県教育委員会主催研修会への参加

■本年度の成果

- ・今年度、地域学校協働活動推進員連絡会の開催方法を見直し、小学校、中学校それぞれにおける事業の在り方を再度見い出す手がかりとなった。
- ・本部長（担当者）と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために、学期ごとに合同会議を開催した。（年2回）
- ・各本部に御協力をいただき、アンケートを実施した。前年度と比較し、次年度の事業実施につなげていきたい。
- ・各本部において、ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめたりーフレットを作成した。



【第2回運営委員会及び研修会】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を見出し推進していく。
- ・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
- ・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成30年度から教育委員会委嘱（令和元年度28名）



【第2回合同会議】

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

持続可能なものとするために、今後も導入に向けた検討を重ねていく。

米原市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

■本年度の具体的活動

(1) 学校運営協議会委員研修会（4月17日）

学校運営協議会委員を対象に、協議会の趣旨および役割等について理解を深める研修会を開催した。市職員による行政説明の後に、学校ごとに意見交換を行った。

(2) 教育フォーラムの開催（9月～12月）

中学校区	日 時	内 容
柏原中学校区	9月27日	○各校からの教育活動の報告
大東中学校区	11月13日	○避難所運営ゲーム テーマ：地域と連携した災害対策を考える
伊吹山中学校区	10月21日	○避難所運営ゲーム テーマ：防災でつながる園・学校・家庭・地域
米原中学校区	12月5日	○中学校各学級の人権宣言の発表 ○パネルディスカッション（テーマ：人権教育） ○講演「共生社会をめざして」講師：パラリンピック出場選手
河南中学校区	11月6日	○学校運営協議会、学校支援地域本部からの活動報告 ○各校園からの教育活動の報告
双葉中学校区	11月16日	○各校園の取組紹介 ○狂言ワークショップ ○狂言鑑賞

■本年度の成果

- 市内すべての小中学校（9小学校、6中学校）および市内の各園も参画し、各校区の実情に応じた協働活動を推進することができた。
- 今年度新たに8校で学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。また未設置校については、来年度導入に向けた素地となる活動を進めることができた。
- 教育フォーラムは今年度6年目の開催となった。地域連携や保幼小中連携の在り方を考える機会となっている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- 学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの更なる構築を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況・・・令和2年度から委嘱を進める方向で検討している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・平成30年度 中学校3校をモデル校として新規に導入（伊吹山中、米原中、河南中）
- ・令和元年度 小学校7校、中学校1校を追加
(山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中)
- ・令和2年度 小学校2校、中学校2校を追加予定
(柏原小、坂田小、大東中、双葉中) ※市内全小中学校に設置完了予定

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に！ふるさと日野学習の推進

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校、家庭および地域住民みんなが役割と責任を自覚し、日野町の宝である子どもたちを健やかに育む体制づくりを確立する。子どもたちの成長を支える「日野町地域学校協働活動推進本部」を設置し、「ふるさとを愛し ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域を誇りに持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして地域と学校が連携・協働して学校教育を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢や志を持ち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りを持てる子どもたちの育成を目指している。

■本年度の具体的活動

小学校では3年目、中学校では2年目を迎える前年度末に活動内容の構想をたて、意欲的に取り組みを始めるようにした。

学期ごとに定期的に実践交流会を実施し、地域コーディネーターと教頭によって各校の取組についての情報交流を行ってきた。子どもたちや保護者の反応がよく効果が大きかった事業について、スタッフやボランティアの招集を含め、活動が活性化した。コーディネーターが作成した活動の便りやアンケートなどの活用方法など、話し合いを重ねる度に新しいアイディアや取り組んでみようとする意欲が伝わってきた。



【地域学校協働活動
推進員実践交流会】

校長会や教頭会などでも、各校の取組状況の交流を図り、各校が互いに地域とともに異なる「特色ある学校づくり」に大変効果があった。

■本年度の成果

町独自で実施している「特色ある学校育成事業」に加えて、地域学校協働活動推進員のコーディネーターによる地域学校協働本部事業を昨年度から実施しており、本年度も順調に進められている。2年目となった中学校では、生徒の読書離れという実態から読書活動に重点をおいた取組を計画した。町内4つのお話ボランティアによる「読み語り」の時間を、朝に15分間設定し、生徒がお話を静かに聞き入る様子が見られた。西大路小学校では、通学路の危険箇所の確認をする際、PTA役員などの保護者の他に自治会長、民生委員にも加わっていただき、安全点検を実施した。学校からの「こども達の注意喚起のための看板を設置したい」という要望の提案を汲んでいただき、自治会長から地域の方に依頼してくださるなど、スムーズに安心・安全な学校の環境づくり進めることができた。

スタッフへアンケート等をとり、ご支援いただいた皆さんへの感想や意見等を参考にしながら、次年度の協働活動を計画的に実施することができた。



【自分のペースで学習！
夏休みチャレンジ教室】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

団体のボランティアの皆さんにご支援いただくことが多かった。各校における学習支援については、学習支援員や地域の大学生に協力いただき進められた。今後は、地域の方による学習支援の輪が広がるような協働活動が進められるようにしていくたい。

今年度で5回を迎えた「夏休みチャレンジ教室」も、町の中心部での開催のためか近隣の子どもたちは多く参加することができたが遠くの子どもたちの参加数が少ない傾向にあった。保護者や子どもたちからも来年も参加したいというニーズが増えていることから、学校の補充学習に学習支援スタッフを振り分けて、勉強がわかる楽しさを実感させたいと考えている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・日野町地域学校協働活動推進協議会には、各学校区の地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）6名、青少年育成町民会議会長・町少年センター所長・学識経験者・小中学校長会代表・町PTA連絡協議会代表・町公民館長代表・各小中学校教頭6名の合計18名で構成され、教育委員会より委嘱されている。
- ・各小学校区に地域学校協働本部を設置し、PTA・学校評議員メンバー等に地域学校行動活動推進員を委嘱し、各校の教頭と連携を図りながら、ふるさと地域学校協働活動推進員が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・保護者や地域から熱い期待と多方面で支援を受けている本町では、校長会にCSアドバイザーによる説明の時間を設けたりや町の事務局と県生涯学習課との懇談会を実施したりするなど、地域学校協働活動を学校運営協議会への導入に向けた取組を実施している。

竜王町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、地域学校協働本部の事務局を公民館に置き、公民館講座の受講生や情報等を活用しつつ、学校（園）支援のために学校（園）と地域人材とを結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上をめざしている。

そして、公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で一人ひとりの人生をより豊かにすることにつながり、一層のまちづくり活動の推進へとつなげたい。

今後は、これまでの「支援活動」から、「連携・協働活動」へ、すなわち地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から地域と学校がパートナーシップに基づき、「双方向」の関係になるようにしていきたい。

これまでの活動をベースに子どもの成長を軸にして自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、「地域とともに歩む学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」をめざしたい。

■本年度の具体的活動

- ・4月中旬 学校園情報交換会の開催。活動方針や課題の検討、問題の共有を図る。
- ・毎月 統括マネージャー・コーディネーター会議（地域学校協働本部定例会）の開催。
- ・年2回 地域学校協働本部だよりの発行。（上半期、下半期）
- ・通年 学校園応援団（ボランティア）の募集。
- ・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信。

■本年度の成果

- ・小中学校の学習では、児童生徒のきめ細かい個別対応が可能になり教育効果が上がった。
- ・託児や校外学習の引率などでは、学校やPTAの行事を安全に円滑に進めるための支援ができた。
- ・地域のボランティアと幼児・児童・生徒とが顔見知りになり、人間関係が密になった。
- ・中学校では、部活動に地域の競技指導者を積極的に外部コーチとして招き、教員と連携を図りながら部活動の運営に取り組んでいる。また、「土曜龍王塾」と称して、教員OBや地元の大学生ボランティアで講師団を形成し、土曜日に高等学校入試対策を実施する試みをはじめている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・依頼されたらボランティアとして関わる段階にとどまっており、チームを作り支援できる体制まで高まっていない。リーダーとなってまとめていく人材が育っていないので、協働活動の推進にはその確保と育成を強化していく必要がある。



【プール授業の安全監視支援】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・現在、地域学校協働活動推進員の委嘱は行っていないが、令和2年度からの委嘱を考えている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本年度からコミュニティスクールとして、これまでの2小学校・1中学校に、2幼稚園が加わり全公立学校園で取り組みを開始予定である。共に学校支援地域本部が機能していたので、引き続きその活動を発展させながら、コーディネート機能を強化し、より多くの、より幅広い層で活動する地域住民の参画を得て、活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施していくことで、地域学校協働本部体制へと発展させていきたい。

豊郷町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] 地域学校協働本部 地域未来塾 放課後子ども教室 土曜日の教育支援

■目指す姿

[地域未来塾]

- ・地域の力を活かし、町内の中学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。

[放課後子ども教室]

- ・地域の力を活かし、町内の小学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。
- ・町内の小学生を対象に、学校・学年が違う子どもたちや地域の方と関わり、様々な体験活動をすることで、生きる力や協働する大切さを学ぶ。

■本年度の具体的活動

[地域未来塾]

(1) 夏季休業中の学習補充教室

3~4名のグループに1名学習支援員を配置し、生徒同士の教え合いの補助や学習指導を行う。

(2) 放課後質問教室

受験に向けた家庭学習でのつまづきを解消するため、放課後に質問教室を行った。

[放課後子ども教室]

(1) 小学校夏季休暇中の学力補充教室

復習プリント等を使い、子ども達がわからないところをボランティアや教職員が個別に指導し、課題の採点などを行った。また、教室の最終日に「科学実験教室」を実施し、理科分野に関する興味や関心を高め、理解を深めた。

(2) さとっこふれあい教室・とよっ子探検隊(全5回)

さとっこ(1~3年生)・とよっ子(4~6年生)に分けて募集し、事業を行った。さとっこは30人の定員を設けて募集し、地域の方を講師として迎え、料理やスポーツなどの活動を行った。とよっ子は各回20名の定員を設けて募集し、博物館や牧場などで体験活動を行った。

■本年度の成果

[地域未来塾]

- ・放課後に地域の方や学生に来ていただくことで教員の負担軽減につながった。
- ・既習内容の復習を中心に学習することで、2学期の学習がスムーズに進められた。
- ・回を重ねるごとに放課後に学習をして帰るというスタイルが徐々に定着してきた。

[放課後子ども教室]

- ・夏季休暇中の学力補充教室では、休業中の児童の様子を把握したり、生活リズムの改善につなげることができた。
- ・とよっ子探検隊・さとっこふれあい教室では、学校や学年の違う子どもが、班活動を行うことにより、普段関わることが少ない子ども同士の交流を図ることがでた。また、体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・地域の方に事業の協力ををお願いしているが、年々確保が難しくなっている。
- ・地域の教育力の低下および家庭の教育を支える環境不足が課題で、家庭や地域が担うべき教育が学校に持ち込まれすぎている。
- ・参加希望者が固定されつつあるため、参加したことのない子どもへのアプローチが必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校評議員を委嘱しているが、学校運営協議会は導入していない。



【さとっこふれあい教室の様子】

甲良町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] 地域学校協働本部 地域未来塾 放課後子ども教室 土曜日の教育支援

■目指す姿

- ・進学に向けて、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
- ・学習課題に粘り強く取り組み、課題を解決しようとする。
- ・学生支援員とのふれあいを通して、自身の進路に対する希望や積極的な気持ちを持つ。



■本年度の具体的活動

中学3年生の希望者対象に10月～2月の毎週月、木、金の実施可能な日に、1回につき2時間程度、合計50回の放課後学習会を実施した。参加は各回20名程度であった。

【マンツーマンでの支援】

本年度は、学生支援員12名の登録があり、毎回3～6名の学生の支援を得ることができた。

■本年度の成果

本町では、学力向上を目指した町独自の取組として、大学と提携して町内小学校および中学校の授業づくりや学級経営等、全般に渡って指導助言を受ける事業を展開している。その繋がりから、学生支援員も関連大学の学生が多く参加してくれているところである。本事業の一環として、12月に中学3年生を対象に大学への訪問を行ったところ、それを機に大学進学への憧れを持つ生徒が増え、後半は、学生支援員を身近な先輩として慕い、放課後学習会に参加する生徒が増えた。放課後学習会に参加した生徒は、学生支援員に丁寧に関わってもらうことで、親しみながら落ち着いて学習に取り組むことができた。学校の教員とは違う、より身近な学生支援員とふれあい、勉強について相談にのってもらう中で、学習への意欲が増し、自ら学ぼうとする気持ちをもつことができた生徒が増えたことは大きな成果であった。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

学生が学生を紹介してくれる形で、今年度は12名の学生支援員に協力を得ることができた。しかし、できる限り少人数での学習を実施していくためには、毎回5名以上の学生に参加してもらうことが必要である。今後、さらに情報を発信し高等学校や大学等との連携を深めていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、令和3年度を目標に全ての小学校および中学校に学校運営協議会の導入を予定している。保育センターへの導入は未定だが、現在のところでは小学校の運営協議会に参加する形で連携ていきたいと考えている。

多賀町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。少子高齢化・人口減少という本町の課題に対して、「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、安心して子育てのできる施策を充実させ、町の活性化を図っている。

また、地域の大人が子どもと顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるよう努めている。大人は子どもと共に活動することを通して、持っている知識や経験を子どもたちに伝えることができ、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる。そうした、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

(1) 登録者に対するボランティア研修会の開催

「応急手当講習」の受講、「読み聞かせ（紙芝居）研修会」の開催で、活動のスキルアップを図った。

(2) 広がりつつある活動の輪

ボランティア活動の中で、「こんなこともできるから何かあつたら連絡して」などの声があり、校園での新たな活動が生まれている。また、口コミで紹介を受け、読み聞かせや放課後の見守り活動などへの参加人数が少しずつ増えている。子どもたちと直接会話しながら活動できる喜びが、やりがいとなっている。

(3) 「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」「放課後見守り（学びっこタイム）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、提携塾から派遣された講師による学習講座（土曜講座）を実施している。また、大滝小学校の低学年児童を対象に、地域サークルやボランティアの方による、宿題やバランスボール等の体験活動（学びっこタイム）を行っている。



【土曜講座での教育長挨拶】

■本年度の成果

- (1) 研修会を重ねることで、参加者のスキルアップを図るとともに、ボランティア同士の交流や意見交換が活発に行われるようになった。
- (2) 学校や園の花の手入れや学習に必要な野菜作りの下準備など、先生方の意向を聞きながら、熱心に子どもたちに関わることができた。ほぼ毎日学校に出向いて活動されたり、園舎周辺の環境を見て連絡をいただくなど、校園と地域との距離が近くなってきたと感じる。
- (3) 土曜講座・学びっこタイムは、小・中学生の学力向上を図るとともに、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として評価され、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

平日は、ボランティア登録者の中で活動できる人数が限られている。FAXや有線放送、紹介等を活用して、幅広く周知するなど工夫している。今後も学生、保護者等など広く募集を行う。



【学びっこ（音読・計算カード読み）】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、「校園の子どもにとって、どのような地域支援が必要か」「地域人材を活用し、開かれた学校づくりをどのように進めるか」等について、CSアドバイザーの指導を受けた研修を重ねている。多賀町に相応しい学校運営協議会を導入するため、他市町の取組も参考にしてイメージを膨らませ、今後の具体的な方向性を探っている。